

平成 25 年度 Let's びぎんプロジェクト 活動報告書

No.	プロジェクト名	掲載頁
0	(各プロジェクトサマリー)	1-8
1	映画でつながる！ Share the Future project	9-13
2	はっしん！！サンライザー	14-18
3	デート DV free キャンパスづくりプロジェクト	19-22
4	にゃんとかし隊！ 2013	23-27
5	いわて自然史プロジェクト	28-31
6	うえだの魅力を伝えよう！！	32-38
7	いわて大学エコマイレッジチャレンジ'13	39-42
8	岩大モザイクアートプロジェクト	43-46

プロジェクト名	映画でつながる！Share The Future プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 吉田拳 (人社1年) メンバー： 白岩卓也 (工 1年) 熊谷羽 (工 1年) 佐藤拓司 (工 1年)	【活動の目的】 1. イベント開催を通じてクリエイティブな空間の創出に尽力する。 2. イベント参加者の皆様に衝撃と感動を提供する。 3. 地域社会に新たなアイデアとつながりを提供する。 ⇒ 映画をきっかけとして、様々な立場の人々が「環境」や「地域」という大きなテーマについて楽しく語り合える、クリエイティブな場を創出することによって、持続可能な社会の実現に寄与することを目指す。
【活動の経過・内容】 5月 ヘレナ監督講演会・映画上映会 参加 6月 レッツびぎんプロジェクト審査 7月 岩手大学環境マネジメント学生委員会の岩館委員長からアドバイスを頂く(17日) サークルや学生委員会に後援依頼を提出 8月 会場の予約 9月 講師の先生と打ち合わせ 10月 NPO法人や報道各社に後援依頼を提出 11月 イベント1日目(15日) 映画鑑賞とワークショップ イベント2日目(16日) 映画鑑賞とワークショップ 反省会(17日)	【写真・記録・図表等】   
【得られた成果】 目標の各日 50 名には届きませんでした、イベント 1 日目は 45 名、2 日目は 34 名のご参加を頂きました。イベント 1 日目は映画『第 4 の革命』を鑑賞し、三浦秀一先生のミニ講演会&ワークショップを行いました。講演会では、原子力発電所の問題もありエネルギー問題に関心が高い人が多く、学生・一般の方双方から活発な質問が飛び出しました。アンケートでは「三浦先生の『原点にかえる』という言葉が印象に残った」、「地域の将来を考えるきっかけになった」という感想が見受けられました。金曜日の夜に行ったため、時間があまり取れず、個々の話題にあまり深入りできなかった、というのが課題です。一方、夜に開催したことで、多くの市民の方にお越し頂くことができました。 イベント 2 日目は映画『幸せの経済学』を鑑賞し、松野薫さんの指導のもと、ワールドカフェというワークショップを行いました。映画について、アンケートでは「これからの生き方について大きなヒントを得た」、また「グローバリゼーションを考えるよい機会になった」という感想が見受けられました。ワールドカフェでは参加者同士の非常に親密な交流がもたれ、アンケートでも「世代の違う人たちと意見交換ができてよかった」、「普段思っても言葉にできなかったことをアウトプットできてよかった」という声が聞かれました。	

プロジェクト名	はっしん！！サンライザー プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 久慈沙織 (農 3年) メンバー： 國廣利紗 (農 3年) 河野堇 (農 3年) 宮川直美 (農 3年) 市川颯太 (農 3年) 菅原立 (農 3年)	【活動の目的】 東日本大震災により、岩手県三陸沿岸部は甚大な被害を被った。岩手大学をはじめ県内外で復興に向けた様々取り組みが行われている。震災からもうすぐ3年が経とうとするが、様々な関わり方で被災地支援に携わる学生が増える一方で、団体同士がそれぞれの活動を知る機会の少なさや、これから被災地支援に携わりたいという学生に対して、被災地支援の多様な情報の提供がなされていないという課題を感じた。 そこで本プロジェクトでは被災地支援に携わる学生を紹介し、被災地支援の情報や学生の関わり方の現状を発信することで、より多くの岩手大学生に被災地支援に関心を持ってもらうことを目的とする。
【活動の経過・内容】 6月中旬～7月初旬 第2号の取材 8月 第2号の紙面の編集作業 9月 第2号を発信し、HP作成やチラシの作成を行う。 10月 WEB上で第2号公開、校内に第2号(印刷版)を設置校内4ヵ所でビラ配布(930部) 10月下旬～11月上旬 第3号取材 11月中旬～下旬 第3号紙面編集 第4号企画会議 12月 WEB上で第2号公開、校内に第3号(印刷版)を設置・第4号紙面編集 1月 WEB上で第3号公開、校内に第4号(印刷版)を設置・WEB上で第4号公開	【写真・記録・図表等】   
【得られた成果】 編集ソフトの扱いに慣れなかった前期は、作成のペースが遅かったり、学外の取材相手とのやり取りに時間が掛かってしまったりした点が反省すべき点である。一方、紙面の内容については、岩手大学内外の様々な規模で行われているボランティアを紹介したり、初めてボランティアに参加する学生へのガイドとなる内容であったりと、意義のあるものをつくることが出来た。 「はっしん！！サンライザー」のホームページのアクセス数は399件だった。約1年間の発信活動で「多くの岩手大学性に被災地支援に関心を持ってもらう」という目標を達成できたとは言い難く、今後も紙面作成にとらわれず活動は続けていく。岩手大学のボランティア団体の学生と協働で被災地支援活動への認知や深めるためのカフェイベントを開催する予定である。また、4月にもう一度ビラの配布を行って、これまで発刊してきた紙面の認知を特に新入生に対して広げていきたい。	

プロジェクト名	デートDV free キャンパスづくりプロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 真嶋遊 (工 3年) メンバー： 中村清嵩 (工 3年) 對馬絵理 (教育3年) 佐々木映美 (教育3年) 中村真彩 (教育3年) 長谷部大貴 (教育2年) 加藤麻衣 (教育1年) 星佳奈 (人社1年)	【活動の目的】 近年、全国的に「デートDV」に関しての事件がニュースなどで報道されることが多くなっている。この事は岩手大学においても無視できる問題ではない。 本活動は、私たち自身を含む一人でも多くの岩大生が、安全で安心なキャンパスライフの実現を図ることを目的とし、岩大生のデートDVの原因を探るための恋愛観調査の継続、NWE Cフォーラムへの参加、文化祭でのパネル展示、意識啓発、情報提供のためのフリーペーパー発行を行うこととする。
【活動の経過・内容】 7月～8月上旬 デートDV調査アンケート ・対象：岩手大学全学部生 ・回答人数：620人 回答率94% 8月 NWE C発表 (24日) 国立女性教育会館にて調査結果を全国に広く発信し、意見交換を行う 10月 大学祭 (19日・20日) 展示内容：アンケート調査の結果、漫画での例の紹介、DVDの上映 11月～1月 フリーペーパー製作・配布	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 デートDV 調査アンケートについて、回収率が良かったため、大まかではあるが学生の傾向を知ることが出来た。少なからずデートDVが発生していることが分かった。 国立女性教育会館報告では、全国へ活動を発信することができた。専門家との意見交換をしたことで、フリーペーパーをつくるうえでのアドバイスを頂いた。反省点としては、現地での周知が足りなかった点と、発表までに十分時間が取れず、考察が十分にできなかった点が挙げられる。 大学祭では、幅広い世代の方にデートDVについて知っていただけた。展示に工夫を凝らし、多くの来場者があった。 活動の集大成であるフリーペーパー作成・配布については、学内外で大きな反響があった。メディアにも取り上げて頂いた。今回作成したフリーペーパーについては、学外から沢山の「送ってほしい」という声を頂いた。発行部数だけでは、対応しきれないため、大学外部の方でも見られるように、岩手大学男女共同参画推進学生委員会のインターネットページに掲載することを予定している。デートDV啓発の活動は今年度だけでなく、継続的に活動していくことを予定している。また、今年度の反省を活かし、更に岩手大学内でのデートDVの周知に力をいれていきたい。	

プロジェクト名	にゃんとかし隊！2013 プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 渡邊拓也 （農 3年） メンバー： 野村未来 （農 3年） 齋藤和美 （農 3年） 渡辺雪乃 （農 3年） 篠春香 （農 3年） 小畑麗 （農 3年） 吾田歩美 （農 3年） 加藤安美 （農 3年） 鈴木翔子 （農 3年） ほか「いのちのサークルねこの手」メンバー	【活動の目的】 岩手大学に生息する野良猫に対して不妊処置を行い、繁殖ができないようにした上で天寿を全うするまで世話をする「地域猫活動」を行う。 最終的には、野良猫がいなくなることを目的とする。これにより、ネコの生活水準を動物福祉により良いものとすると同時に、野良猫にまつわる様々な問題（糞尿、研究施設への侵入など）を解決することを目指す。
【活動の経過・内容】 7月 大学周辺町内会へ地域猫活動の周知 飼い猫かどうかの確認 イベント出展・活動の広報 8月 岩手大学安全衛生委員会と協議 9月 大学構内の野良猫の捕獲を開始 子猫は保護し、雌の成猫は不妊手術 10月 防寒用シェルター・トイレの設置	【写真・記録・図表等】 
【得られた成果】 不妊手術を行ったため、大学内での猫の無秩序な繁殖は抑えられた。また、子猫に限り、積極的に保護を行ったため、ピーク時 20 頭を超えていた猫の個体数は、11 頭まで減少した。 なお、個体数の減少以外にも以下のような成果が得られた。 ①定住している雌猫に対して不妊手術を行ったため、外部から雄猫が侵入してきても交配して子猫が生まれる懸念が無くなった。 ②侵入が確認されていた農学部の温室へは、個体数が減少したことと、猫小屋を設置したことで、ある程度侵入を抑止できている。 今後の活動予定としては、まず新しく入ってきた猫を調査し、順次不妊手術を行うことが第一である。大学構内の猫を不妊手術することを持続しても、新たに外部から猫が侵入してくるため、これを防ぐことも重要となる。ゆえに今後の展望としては、地域猫活動を岩手大学のみの活動にとどめるのではなく、地域一体となった活動に発展させて行くことが挙げられる。いずれにしても、地域猫活動は数年から十数年の長い期間を必要とする活動であるため、それまでサークルを維持し、活動を継続させる必要がある。	

プロジェクト名	いわて自然史プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 川村祐希（農 2年） メンバー： 中川しほの（農 3年）， 吾田歩美（農 3年） 大石和樹（農 2年）， 伊藤優志（農 2年） 宮崎真緒（農 2年）， 舩谷悠祐（農 2年） 樋渡さつき（農 2年）， 小野はるか（農 2年） 渡辺悠花（農 2年）， 吉田奈央（農 2年） 佐藤拓也（農 2年）， 由利昂大（農 2年） 安野彩乃（農 1年）， 櫻井彩可（農 1年） 谷澤里沙（農 1年）	【活動の目的】 現在、小・中・高等学校では解剖の授業が少なくなっている。また、大学では限られた学部しか動物に触れる機会がない。解剖は生物の複雑さ、不思議さ、美しさ、自然界の多様性を体感できる貴重な場である。岩手県鳥獣保護センターでは死亡した野生動物が廃棄され、貴重な生物標本として生かされていない現状である。 そこで岩手県鳥獣保護センターの死体を活用し、学内・学外で本物の動物やその標本に触れる機会、標本を作る機会を設け、自然科学の普及活動、理科教育の支援活動を行うことを目的とする。
【活動の経過・内容】 6 月 子ども科学館に企画書を提出 学内イベント第 1 回「死物学への招待」企画 7 月 学内に宣伝ポスターを掲示 台本、標本、模型の準備 盛岡市子ども科学館で打ち合わせ 9 月 第 1 回「死物学への招待」開催 10 月 第 2 回「死物学への招待」企画 11 月 第 2 回「死物学への招待」開催 12 月 「歯っ！と歯っけん歯の不思議」 子ども科学館イベント本番（7日）	【写真・記録・図表等】 
【得られた成果】 「歯っ！と歯っけん歯の不思議」について：参加者は大人 13 名・子ども 18 名。終了後に標本に触りに来る子どもがいて、本物から興味を引き出すという教育・普及の目的は十分に達成できたといえる。子ども科学館では生物分野を扱うことはほとんどなく、新しい試みとして好評であった。 「死物学への招待」について：参加者は 1 回目が 1 名、2 回目は 5 名。全体的に参加者は少なかったものの、芸術文化課程など新しい分野の学生に参加してもらえたことが大きな成果だった。参加者からは、面白い試みで次回も期待しているという感想をいただいた。動物の死体を扱うという今までには無い試みであったが、好意的な反応を得られた。 子ども科学館での活動や「死物学への招待」のような動物の解剖、標本製作を行える機会を今後も企画していく。また、本プロジェクトで得られた骨格標本等は図書館ギャラリーで展示し、一般に見てもらうことで活用する予定である。この活動について今後は宣伝を活発に行い、理科教育科などの関連分野の学生を巻き込んでさらに発展させていきたい。	

プロジェクト名	「うえだの魅力を伝えよう！！」プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 鎌田憲武 (人社 2年) メンバー： 鈴木基広 (人社 2年) 植木啓斗 (人社 2年) 鹿糠冴俊 (人社 2年) 福島佳奈 (人社 2年) 兵庫菜花 (人社 2年) 太刀川晴之 (農 1年) 阿部慶太 (農 1年)	【活動の目的】 《上田地域の内の人には》上田の良さに改めて気付いてもらう、出向いてもらう。 《上田地域の外の人には》上田を知ってもらう、来てもらう。 岩大生に限らず、上田地域や上田地域以外の盛岡市民、昔上田に住んでいた人、観光客等を対象に情報紙を作成する。情報誌作成を通し、上田地域のみなさんと交流すること、また、学生の力で、まちに貢献し、まちを盛り上げることを目的とする。平成 24 年度に続いての今回の情報誌 2 号では、「上田商店街」から規模を拡大して「上田地域」の魅力を発信する。
【活動の経過・内容】 8 月 上田夏祭り参加・取材 10 月 紙面構成を企画、全体計画 取材 (12 月中旬まで) 11 月 取材 12 月 取材、記事推敲・デザイン編集、 配布準備 1 月 記事推敲・デザイン編集 入稿、納品、配布設置 2 月 配布設置、訂正作業、反省会	【写真・記録・図表等】 
【得られた成果】 「うえだっしょ！！」の 2 号目として一貫性を維持しながらも、部数や内容においてよりパワーアップした情報紙が完成した。「ビジュアルはもちろん読み応えのある情報紙」になったのは、前回の反省やノウハウを生かしながら、「地域」のなかで作成することができた私たちの進歩だと感じる。その一方で、2 号目ということで外部の盛り上がりを演出する工夫が足りなかったとの反省もあった。 しかしながら、1 号よりも広い範囲に、且つより多くの人に情報紙を届け、上田地域の魅力を伝えることができた。この情報紙によって上田に足を運んでくれた方がたくさんいたことは嬉しい。また作業の過程では岩大生である私たちが上田地域の魅力を感じ、上田地域をより近くに感じることもできたことも大きな成果と考えている。	

プロジェクト名	岩手大学エコマイレージチャレンジ 2013 プロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 広野義明 (工 2 年) メンバー： 安達尚登 (工 院1年) 北村直理 (農 院1年) 増田竣亮 (工 4年) 佐々木朗 (工 4年) 金屋裕樹 (工 2年) 山本暁雅 (工 2年)	【活動の目的】 本田技研株式会社が主催する「Honda エコマイレージチャレンジ」は、アマチュアの人々で争われる燃費を競う大会であり、「1 リッターのガソリンでどれくらい走れるのか?」をテーマに大会を通して環境意識の向上と技術の発展を目的に行われている。 岩手大学 team e-FACT はメンバーの大半が工学部生であり、授業や実習で得た知識を活かす場として参加する。さらに技量と知識を深め、より省燃費な車両の製作を行い、大会への参戦を目指す。同時に、大会への継続参加、人材育成を目的とした。
【活動の経過・内容】 4月 チーム発足・旧車両の分解 6月 エンジンや補機類の発注 7月 新型車両の設計開始 8月 工作センター様の指導の下, 制作開始 9月 タイヤ・ホイールなどの購入 車両完成 (30日) 10月 Hondaエコマイレージチャレンジ 全国大会予選 (5日) Hondaエコマイレージチャレンジ 全国大会決勝 (6日) 不来方祭展示 (19日)	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 大会結果：記録 334km/L (クラス III 高専・大学・専門学校クラス 完走 48 チーム中 32 位) メンバーのほとんどが 2 年目の参加だったため、本年は少し余裕を持って取り組めた。エンジンがなかなか届かないということもあったが、工作センターの方のご指導・ご支援、田中ホンダ様の協力のおかげもあり、無事完走を果たすことができた。燃費自体は去年の倍以上になりタイヤ性能の影響や車両剛性の重要性などを発見できたが、大会を通して車両の改善点を多く見つけることが出来た。来年以降の参戦の参考にしていきたいと考えている。 また、反省点として書類管理体制が悪かったこと、スケジュール組立に問題があったことが挙げられる。これについては、来年度以降は書類ファイルの一本化を行うことにより改善していく。今年は大学祭にて展示・広報を実施し、一般の方々や高校生への周知活動もできた。今後は試乗会などもっと大規模な地元企業向けの宣伝活動を取り入れていきたいと考える。 今回のプロジェクトで、環境への取り組みの難しさを感じつつも、メンバーと一緒に物を作る楽しさを知ることが出来た。この経験を将来の技術開発や研究に活かしていきたい。	

プロジェクト名	岩大モザイクアートプロジェクト
【構成員氏名・学部・学年】 代表者： 福岡千春 (工 4年) メンバー： 河野真由 (工 4年) 中山環 (工 4年) 渡辺杏 (工 4年) 高貝賢 (工 4年) 塚澤尚悟 (工 4年) 仁多見りょう (岩手県立大学 ソフトウェア情報学科 4年)	【活動の目的】 4年間岩手大学で過ごし、地域の人、建物、行事、サークルなどたくさんの思い出ができ、岩大周辺地域や岩大の双方にとっても魅力的な環境であると感じた。その魅力は自分で発見したもの、先輩から教えてもらったものなど様々な形で知ることができたが、まだまだ知らない魅力がたくさんあると思った。 そこでこのプロジェクトでは周辺地域、岩手大学の双方の関係について改めて見つめることで新たな発見をし、写真モザイクアートを通して高校生や後輩に伝え、このモザイクアートをきっかけに地域と岩大生、互いの相互関係をより深めることを目的とした。
【活動の経過・内容】 6月 アンケート作成 7月 学生食堂へアンケート用紙の設置 WEB上でのアンケート設置 Twitter, Facebookの開設 NPCNさんとの対談 8月 岩大周辺のお店の取材・写真撮影 サークルキャプテン会議に参加し、写真提供呼びかけ 9月～10月 集まった写真の加工・現像 10月 大学祭での展示 (19日・20日)	【写真・記録・図表等】  
【得られた成果】 アンケート用紙やWEB上のアンケートの回答数が伸びず、回答してもらうことは難しいことだと感じた。もっと回答したくなるような、奇抜な工夫 (色・デザイン・内容) が必要であった。 お店へは 32 店舗に訪問させて頂いた。訪問先の店長さんや店員さんは懇切丁寧に対応してくださり、地域の温かさや地域の知らない魅力を感じた。また、岩大周辺地域が昔より活気がなくなっているという声を聞いたので、地域の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。 岩大生からの写真提供は、ポスターやWEB上の呼びかけだけでは集まりにくかったため、データを直接受け取りに行ったり、練習風景を撮影しに行ったり、サークルキャプテン会議に再三参加させて頂いたり、自分達が積極的に動くよう心掛けた。その結果、多くの学生に協力して頂き、目標の写真枚数を大幅に超える提供を得られた。大学祭当日はたくさんの方に見に来てもらい、岩手大学紹介テレビ番組「ガンダイニング」にも取材して頂いた。 このプロジェクトが、岩大と周辺地域の双方の魅力を多くの人に伝え、多くの学生が行動を起こすきっかけになってほしいと思った。今後岩大とその周辺地域がもっと盛り上がってほしい。	

H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：映画でつながる！ShareTheFuture プロジェクト

1. 構成員氏名・学部・学科

吉田 拳 人文社会科学部国際文化課程 1 年（代表）
白岩 卓也 工学部社会環境工学科 1 年
熊谷 羽 工学部電気・電子情報システム工学科 1 年
佐藤 拓司 工学部応用化学生命工学科 1 年

2. 活動目的

- 1、私たちはイベント開催を通じてクリエイティブな空間の創出に尽力いたします。
- 2、イベント参加者の皆様に衝撃と感動を提供します。
- 3、地域社会に新たなアイデアとつながりを提供します。
- 4、これらすべては幸福かつ持続可能なコミュニティづくりに貢献するためです。

⇒ 映画をきっかけとして、様々な立場の人々が「環境」や「地域」という大きなテーマについて楽しく語り合える、クリエイティブな場を創出することによって、持続可能な社会の実現に寄与します。

達成度合いを終了後の参加者アンケートで計り、参加者の満足度 90%以上を目指します。

3. 活動の経過・内容

活動内容	イベントの開催
開催時期	11 月 15 日（金）および 16 日（土）
開催場所	銀河ホール（15 日）、北桐ホール及び E 2 1（16 日）
イベント内容	1 日目（金曜日）18:30 - 21:00 テーマ「環境」 18:30 - 20:00 映画「第 4 の革命」上映会 20:00 - 20:30 三浦秀一先生によるミニ講演会 20:30 - 21:00 ワークショップ 2 日目（土曜日）13:00 - 16:30 テーマ「地域」 13:00 - 14:10 映画「幸せの経済学」上映会 14:10 - 14:30 映画感想交流会及び休憩 14:30 - 16:30 ワールドカフェ（進行/松野薫さん）

活動経過（2013 年）

5 月 19 日	ヘレナ監督（幸せの経済学）講演会 拝聴 場所 明治学院大学（東京都） 内容 映画「懐かしい未来」上映会 鎌田陽司（NPO 代表）解説 安田美絵（社会活動家）講演会
5 月 26 日	第一次試写会（構成員対象） 内容 映画「第 4 の革命」上映 映画「幸せの経済学」上映

映画の感想を共有

- 6月5日 レッツびぎんプロジェクト審査会
- 6月6日 レッツびぎんプロジェクト採用の連絡を受ける
- 6月22日 購入要求書をいただく
- 7月13日 三浦秀一先生と松野薫さんに伊藤先生からご連絡いただき、内定をいただく
- 7月17日 岩手大学環境マネジメント学生委員会の岩館委員長からアドバイスをいただく
- 7月19日 環境サークル「リユース」様、農牧舎様、民俗芸能サークル「ばっけ」様、有機農業研究会様、ため池保全サークル **ike-ic** 様、いのちのサークルねこの手様、グリーンキャンパスプロジェクト〜緑の力〜様、NPCN様、岩手大学生生活協同組合生協学生委員会様に後援名義依頼申請書を提出する
- 8月29日 銀河ホール、北桐ホール、E21を確保する
- 9月5日 松野薫さんと三浦秀一先生にご出演依頼状を発送
- 9月23日 一関市民パワー発電所事業化検討地域協議会（仮称）の設立準備会に代表者が出席
- 9月28日 伊藤幸男先生のご同席のもと、松野薫さんと東京にて打ち合わせ
- 10月11日 しえあハート村の 11 日の灯りに代表者が出席
モーリオの空様、NPO 法人環境パートナーシップいわて様に後援名義依頼申請書を提出する
- 10月14日 UNITED PEOPLE 社から上映セットが届く
- 10月15日 岩手日報社様、テレビ岩手様、IBC 岩手放送様、株式会社エフエム岩手様、盛岡タイムス様、岩手大学環境マネジメント学生委員会様に後援名義依頼申請書を提出する
- 10月20日 伊藤幸男先生のご同席のもと、三浦秀一先生と一関にて打ち合わせ
- 10月26日 本イベントの公式ホームページを作成 (<http://sharethefuture2013.jimdo.com/>)
- 10月30日 『自由食堂』に代表者が出席
- 11月1日 岩手県倫理法人会モーニングセミナーに代表者が出席
UNITED PEOPLE 社のホームページ上でイベント告知開始
- 11月4日 岩手ドリームプラン・プレゼンテーション 2013 盛岡大会に代表者が出席
- 11月11日 しえあハート村の 11 日の灯りに代表者が出席
- 11月13日 『夜のともくら』に代表者が出席
- 11月14日 岩手日報で本イベントを紹介していただく
- 11月15日 イベント 1 日目
- 11月16日 イベント 2 日目
- 11月17日 事務局反省会
- 11月18日 イベントの後片付けが終了

4. 結果報告

イベント1日目(11月15日)は45名の、イベント2日目(11月16日)は34名のご参加をいただきました。事務局では各日50名を目標に広報活動を行っていましたが、目標には届きませんでした。参加者の満足度は1日目で77.4%(サンプル数39)、2日目で93.3%(サンプル数20)でした。90%以上を目標としていたので、1日目は達成できず、2日目は達成できたことになります。このことから私たちは、「1日目は目標達成には至らなかった。2日目はおおむね目標を達成できた」と言えると考えました。

イベント1日目は映画『第4の革命』を鑑賞し、三浦秀一先生のミニ講演会&ワークショップを行いました。三浦先生のミニ講演会では、原子力発電所の問題もありエネルギー問題に関心が高い人が多く、学生からも市民の方からも質問が飛び出しました。アンケートでは「三浦先生の『原点にかえる』という言葉が印象に残った」、また「地域の将来を考えるきっかけになった」という感想が見受けられました。金曜日の夜に行ったため、時間があまり取れず、個々の話題にあまり深入りできなかった、というのが課題です。一方、夜に開催したことで、多くの市民の方にお越しいただくことができました。

イベント2日目は映画『幸せの経済学』を鑑賞し、松野薫さんの指導のもと、ワールドカフェというワークショップを行いました。映画について、アンケートでは「これからの生き方について大きなヒントを得た」、また「グローバリゼーションを考えるよい機会になった」という感想が見受けられました。ワールドカフェでは参加者同士の非常に親密な交流がもたれ、アンケートでも「世代の違う人たちと意見交換ができたのがよかった」、「普段思っても言葉にできなかったことをアウトプットできてよかった」という声が聞かれました。ワールドカフェは長い時間を必要とするので、忙しく帰る方もおり、25人で行いました。もっと人数を集めるべきだった、というのが課題です。

全体としては「ある程度目標は達成できたが、改善の余地が大いにある」と言えると考えます。

5. 今後の活動予定

来年度に入ると事務局メンバーが個々の活動で忙しくなる見込みのため、今後の活動は未定です。イベントの感想として「小規模でもいいので、継続してほしい」、また「継続が大切だ」という声をいただきました。大変有難いことです。このことを踏まえて来年度以降私たちが持続可能な社会の実現にどう寄与していけるのか、考えていきたいと思います。

<活動の写真> ～ イベント1日目 ～



～ イベント2日目 ～



H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：はっしん！！サンライザー

1. 構成員氏名・学部・学科

久慈	沙織	農学部共生境課程 3 年
國廣	利紗	農学部共生境課程 3 年
河野	董	農学部共生境課程 3 年
宮川	直美	農学部共生境課程 3 年
市川	颯太	農学部共生境課程 3 年
菅原	立	農学部共生境課程 3 年

2. 活動目的

2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災で発生した津波により、岩手県三陸沿岸部は甚大な被害を被った。県内外で復興に向けた様々取り組みが行われているが、岩手大学も研究機関としての技術や専門性、そして学生の力などの強みを生かして復興に貢献してきた。震災からもうすぐ 3 年が経とうとするが、様々な関わり方で被災地支援に携わる学生が増える一方で、団体同士がそれぞれ何をやっているのかを知る機会がなかったり、これから被災地支援に携わりたいという学生に対して、被災地支援の多様な情報の提供がなされていなかったりというような課題を感じるが多くなった。

そこで本プロジェクトでは被災地支援に携わる学生を紹介し、被災地支援の情報や学生の関わり方の現状を発信することで、より多くの岩手大学性に被災地支援に関心を持ってもらうことを目的とする。

3. 活動の経過・内容

➤6 月中旬～7 月初旬

- ・第 2 号の取材

もりもり岩手、SAVE 岩手、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、子ども議会の活動に参加している学生へのインタビュー。

➤8 月

- ・第 2 号の紙面の編集作業。

➤9 月

- ・第二号を発信し、HP 作成やチラシの作成を行う。

➤10 月

- ・WEB 上で第 2 号公開、校内に第 2 号（印刷版）を設置。

- ・校内 4 ヲ所でビラ配布 *カッコ内は配布部数。

中央食堂前（600）、農学部食堂前（150）、工学部食堂前（150）、ボランティア室（30）

➤10 月下旬～11 月上旬

第 3 号取材

ボランティア説明会への参加、ボランティア室への取材、学内のボランティアプログラムに参加している学生へのインタビュー

➤11 月中旬～下旬

- ・第 3 号紙面編集

- ・第 4 号企画会議

➤12 月

- ・WEB 上で第 2 号公開、校内に第 3 号（印刷版）を設置

- ・大学食堂内に設置されているインフォメーション内にサンライザーの告知を掲載

- ・第 4 号インタビュー

結-YOU-、復興 girls&boys*へのインタビュー。pocapoca へのメールインタビュー。

・第4号紙面編集

➢1月

・WEB上で第2号公開、校内に第4号（印刷版）を設置。

4. 結果報告

②発行紙面

レッツびぎんプロジェクト期間内で以下3つの紙面を発刊した。

➢第2号 2013年9月13日 発行

子どもに関わる被災地支援に絞りインタビューを行った。子どもというテーマに絞っても校内外で多様な活動している人たちが多くいるということを発信する目的で作成した。イラストレーターを使用して作成し第一号に比べより見やすい紙面作成ができた。一方で、インタビュー対象に校外の団体が多く含まれていたため、学生を通しての写真のやり取りや文章チェックに時間がかかってしまった。加えて、初めて使用するソフトということもあり編集にかなり時間がかかってしまった。当初の計画とは異なりプロジェクト前期を第2号の紙面作成、発信基盤の構築（HP作成PR活動）に費やしてしまったことは反省すべき点である。



第2号表紙、pp6-7

➢第3号 2013年12月4日発行

岩手大学内で改めてボランティアをしたいと思っている人へのガイドとなるようなものを作りたいという思いから企画した。ここでボランティアコーディネータの楡井さんとも良い関係を築くことができ、5. 今後の予定にあるように、共同でイベント開催の企画を立てることやボランティア室にチラシ・紙面の設置ができたのはサンライザーにとって紙面発行以上の意義があったと思われる。



第 3 号表紙、pp4-5

➤第 4 号 2014 年 1 月

岩大生に注目して 1 号から 3 号までインタビューを続けてきたが、第 4 号では他大学の取り組みを取材することで岩手大学の被災地支援活動をより相対的に見ることができるのではないかという思いで企画した。取材団体の人を巻き込みながら、互いに協力しながら活動を進めている姿がとても印象的であった。



第 4 号表紙、pp6-7

①紙面発信状況

作成した紙面は WEB（表 1）と印刷版（表 2）で発信した。

WEB での発信媒体と状況		印刷版の構内設置場所	
HP(TOP)	アクセス数 340	中央食堂	
HP(バックナンバー)	アクセス数 399	農学部食堂	
FACE BOOK	いいね数 68	学生センターエントランス	
Twitter	フォロー数 88	学生センターA 棟学生控え室	
岩手大学 HP	不明	学生センターB 棟学生控え室	
		ボランティア室(第 3 号から)	

表 2

表 1

5. 今後の活動予定

約 1 年間の発信活動で「多くの岩手大学性に被災地支援に関心を持ってもらう」という目標を達成できたとは言い難く、今後も紙面作成にとらわれず活動は続けていく。直近の活動としては5月に岩手大学のボランティア委員と協働で被災地支援活動への認知や深めるためのカフェイベントを開催する予定である。また、4月にもう一度ビラの配布を行って、これまで発刊してきた紙面の認知を特に新入生に対して広げていきたい。一方で現在メンバー全員が就職活動を行っているということもあり、紙面発行は当分休止とする。

活動写真



打ち合わせの様子



中央食堂内に設置した紙面

H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：

デートDVフリーキャンパスづくりプロジェクト

～デートDVを知って楽しい岩大にしよう～

1. 構成員氏名・学部・学科

真嶋 遊	工学部社会環境工学科 3 年（代表）
中村 清嵩	工学部社会環境工学科 3 年
對馬 絵理	人文社会科学部国際文化課程 4 年
佐々木 映美	教育学部生涯教育課程 3 年
中村 真彩	教育学部生涯教育課程 3 年
長谷部 大貴	教育学部生涯教育課程 2 年
加藤 麻衣	教育学部芸術文化課程 1 年
星 佳奈	人文社会科学部国際文化課程 1 年

2. 活動目的

近年、全国的に「デートDV」に関しての事件がニュースなどで報道されることが多くなっている。この事は岩手大学においても無視できる問題ではない。

本活動は、私たち自身を含む一人でも多くの岩大生が、安全で安心なキャンパスライフの実現を図ることを目的とし、岩大生のデートDVの原因を探るための恋愛観調査の継続、NWE Cフォーラムへの参加、文化祭でのパネル展示、意識啓発・情報提供のためのフリーペーパー発行を行うこととする。

※安全で安心なキャンパスライフの実現とは？

デート DV の正しい知識を身につける事で、今いる・これからできるパートナーのことを大切に、安心感のある充実した生活

3. 活動の経過・内容

① デートDV 調査アンケート

- ・日時：7月中旬～8月上旬
- ・対象：岩手大学全学部生
(教育学部、人文社会科学部、工学部、農学部)
- ・回答人数：620人 回答率94% (学部生全体 5,012人)
- ・目的：デート観恋愛観・デートDVの認知度調査

② NWE C 発表

- ・日時：8月24日
- ・場所：国立女性教育会館(埼玉県武蔵嵐山)
- ・参加人数：約20名
- ・目的：調査結果を全国に広く発信し、意見交換を行う
学内における活動を充実させる

③ 文化祭

- ・日時：10月19～20日
- ・展示内容：アンケート調査の結果、漫画での例の紹介、DVDの上映
- ・目的：学内での認知度をあげる
学内の現状を知ってもらう

④ フリーペーパー製作・配布

- ・製作期間：11月～1月
- ・配布期間：1月～
- ・主な内容
・デートDVとは・アンケート内容、漫画での事例紹介、相談先の提示

4. 結果報告

① デートDV調査アンケート

・良かった点：回収率が良かった。大まかではあるが学生の傾向を知ることが出来た。少なからずデートDVが発生していることが分かった。

・改善点：アンケート内容を十分に活用出来なかった。配りっぱなしで終わってしまったところがある。・アンケートの項目について改良すべき点があった

② NWEC 報告

・良かった点：全国へ発信することができた。

専門家との意見交換をすることが出来た。フリーペーパーをつくるうえでのアドバイスをいただいた。

・改善点：現地での周知が足りなかった。発表までに十分時間が取れず、考察が十分にできなかった

③ 文化祭

・良かった点：幅広い世代の方に知っていただいた。展示に工夫を凝らした。人がいっぱいきた

・改善点：見に来ていただいた方にアンケートを取っていなかった。

④ フリーペーパー作成 配布

・良かった点：学内外で大きな反響があった。メディアにも取り上げて頂いた。

・改善点：手渡しでの学生への配布が少なかった。設置場所をもう少し検討すればよかった。

5. 今後の活動予定

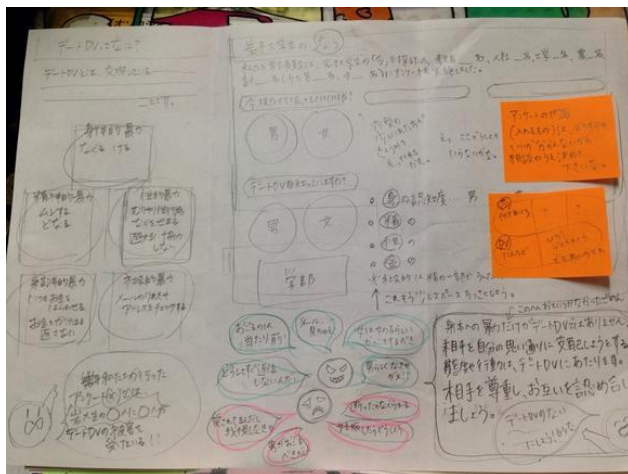
「デートDV」への活動は今年度だけでなく、継続的に活動していくことを予定している。また、今年度の反省を活かし、更に岩手大学内でのデートDVの周知に力をいれたい。特に新入生に対しても今年度と同様の活動をしていくことが大事であるため、今回作成したフリーペーパーを入学式などの行事の際に配布する。

今回作成したフリーペーパーについては、学外から沢山「送ってほしい」という声があった。今のところ声をかけていただいた方へは、配布しているもののメンバーの時間やお金の関係があり続けていくことは困難な状況である。そのため、外部の方でも見られるように、「インターネット」に掲載するというを予定している。

<活動の写真>



NWEC での報告の様子



フリーペーパー製作過程



フリーペーパー配布の様子

H 2 5 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名： にゃんとかし隊！2013

1. 構成員氏名・学部・学科

渡邊 拓也 農学部獣医学課程 3 年（代表）
野村 未来 農学部獣医学課程 3 年
齋藤 和美 農学部獣医学課程 3 年
渡辺 雪乃 農学部獣医学課程 3 年
篠 春香 農学部獣医学課程 3 年
小畑 麗 農学部獣医学課程 3 年
吾田 歩美 農学部獣医学課程 3 年
加藤 安美 農学部獣医学課程 3 年
鈴木 翔子 農学部動物科学課程 3 年

他、同好会「いのちのサークルねこの手」に所属するメンバー

2. 活動目的

岩手大学に生息する野良猫に対して不妊処置を行い、繁殖ができないようにした上で天寿を全うするまで世話をする「地域猫活動」を行う。最終的には、野良猫がいなくなることが目的とする。これにより、ネコの生活水準を動物福祉的により良いものとすると同時に、野良猫にまつわる様々な問題（糞尿、研究施設への侵入など）を解決する。

3. 活動の経過・内容

～2013 年 7 月

周辺の町内会への活動の周知を行い、同時に岩手大学内で確認されている野良猫が近隣住民の飼い猫でないかの確認を行った。また、「馬っこパークいわて」にて行われた「馬っこフェスタ」などの各種イベントでブース出展を行い、活動の広報や、活動に対する意見をアンケート調査した。

～2013 年 8 月

岩手大学安全衛生委員会との実施形態についての協議を行った。これにより、実際に餌やりを行う場所の選定や、猫小屋、看板、猫トイレの設置の許可を頂いた。また、不妊手術を行って頂いた動物病院において獣医師の方との協議を行った。

～2013 年 9 月

大学構内（農学部、図書館前駐車場付近）の猫の捕獲を開始した。捕獲した猫は、子猫は保護して譲渡を行い、成猫は不妊手術をしてもとの場所へ放した。なお、雄猫に対しては去勢手術は行わなかった。これは、雄猫本来の闘争本能を失わせないことによって外部から別の猫が侵入してくることを防ぐためである。

～2013 年 10 月

サークル棟付近の猫の捕獲を行った。捕獲した猫は例によって、成猫は不妊手術をしてもとの場所に戻し、子猫は保護した。以降、猫小屋とトイレを設置し、毎日シフトを組んで餌やりを行っている。

4. 結果報告

不妊手術を行ったため、大学内での猫の無秩序な繁殖は抑えられた。また、子猫に限り、積極的に保護を行ったため、ピーク時 20 頭を超えていた猫の個体数は、11 頭まで減少した。なお、個体数の減少以外にも以下のような成果が得られた。

- ・定住している雌猫に対して不妊手術を行ったため、外部から雄猫が侵入してきても交配

して子猫が生まれる懸念が無くなった。

・侵入が確認されていた農学部温室へは、個体数が減少したことと、猫小屋を設置したことで、ある程度侵入を抑止できている。(2月15日に行なった個体数調査においては、足跡が確認されていない)

5. 今後の活動予定

まず新しく入ってきた猫を調査し、順次不妊手術を行うことが第一である。また、大学構内の猫を不妊手術することを続けても、新たに外部から猫が侵入してくるため、これを防ぐことも重要となる。ゆえに今後の展望としては、地域猫活動を岩手大学のみの活動にとどめるのではなく、地域一体となった活動に発展させて行くことが挙げられる。いずれにしても、地域猫活動は数年から十数年の長い期間を必要とする活動であるため、それまでサークルを維持し、活動を継続させる必要がある。

<活動の写真>



餌やりの風景



設置した猫小屋。内側には断熱材と毛布が敷かれており、毎日カイロを交換している。農学部猫は、以前は動物科学過程の干し草を保管する納屋に侵入して寒さをしのいでいた

が、設置後はこちらを優先して使っているように見受けられる。



イベントでのブース出展の様子。地域猫活動についての広報を行なった。



保護した猫たち。左が発見当初。捨てられたダンボール箱に産み落とされていた。発見当初は10月であり、気温が低かったため、4匹のうち1匹は間もなく死亡してしまった。残りの3頭も生命の危険にあったため急遽保護。一般の協力者の方からの多大な貢献のもと、最終的には里親を見つけることができた。



上は保護したあとの様子。

※子猫の保護・譲渡は、本プロジェクトにて特別に行ったものであり、「いのちのサークルねこの手」では、動物保護の依頼は一切受け付けておりません。

H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：

「いわて自然史プロジェクト」

1. 構成員氏名・学部・学科・学年

川村 祐希	農学部共生環境課程 2 年（代表）
大石 和樹	農学部農学生命課程 2 年
伊藤 優志	農学部農学生命課程 2 年
宮崎 真緒	農学部動物科学課程 2 年
舩谷 悠祐	農学部農学生命課程 2 年
中川しほの	農学部獣医学課程 3 年
吾田 歩美	農学部獣医学課程 3 年
櫻井 彩可	農学部動物科学課程 1 年
樋渡さつき	農学部共生環境課程 2 年
渡辺 悠花	農学部農学生命課程 2 年
吉田 奈央	農学部農学生命課程 2 年
佐藤 拓也	農学部農学生命課程 2 年
由利 昂大	農学部農学生命課程 2 年
安野 彩乃	農学部動物科学課程 1 年
小野はるか	農学部農学生命課程 2 年
谷澤 里沙	農学部動物科学課程 1 年

2. 活動目的

現在、小・中・高等学校では解剖の授業が少なくなっている。また、大学では限られた学部しか動物に触れる機会がない。解剖は生物の複雑さ、不思議さ、美しさ、自然界の多様性を体感できる貴重な場である。岩手県鳥獣保護センターでは死亡した野生動物が廃棄され、貴重な生物標本として生かされていない現状である。

そこで岩手県鳥獣保護センターの死体を活用し、学内・学外で本物の動物やその標本に触れる機会、標本を作る機会を設け、自然科学の普及活動、理科教育の支援活動を行うことを目的とする。

3. 活動の経過・内容

①「^は歯っ！と^は歯っけん歯の不思議」

内容

肉食動物、草食動物、げっ歯類の骨格標本を用いて頭骨や歯、食痕を比較することで、生物の歯が食べるものに適応していることに気づいてもらうための子供向け科学イベント。

経過

- | | |
|--------|------------------------|
| 6月28日 | 子ども科学館に企画書を提出 |
| 7月～12月 | 台本、標本、模型の準備 |
| 7月21日 | 盛岡市子ども科学館で打ち合わせ |
| 12月7日 | 本番（11：00～と14：00～の2回開催） |

もりおか し
盛岡市

こ
ども

か
がく

く
かん

NEWS

2013.12.4

岩手大学自然史探偵団による
「^は歯っ！と^は歯っけん！歯の不思議」のお知らせです。

盛岡市子ども科学館では、12月7日（土）岩手大
学自然史探偵団主催のイベント「^は歯っ！と^は歯っけん！
歯の不思議」を開催いたします。

草食動物、肉食動物、げっ歯類の頭骨や歯、食痕を見
比べ、歯と食べ物の関係を探ることができます。
ぜひご来館下さい！

記
日時 12月7日（土）
①11:00～
②14:00～
（所要時間20分程度）

場所 盛岡市子ども科学館2階 第三展示室
定員 なし
費用 無料（ただし、展示室の入場料が必要です。）

※動物の骨など苦手な方はご遠慮下さい。

30th
子ども科学館は
おかげで30周年



盛岡市子ども科学館

盛岡市本宮字校敷地13-1
TEL 019-634-1171 FAX 019-635-2561
E-mail kokabou@iwate-emai.ne.jp
URL http://www.kodomonokagukan.com

②「死物学への招待」

内容

動物の解剖、骨格標本製作を通して生物の複雑さ、不思議さ、美しさ、自然界の多様性を体感する学内向けイベント。

経過

- | | |
|----------|----------------------------------|
| 6月 | 第1回「死物学への招待」企画 |
| 7月 | 学内に宣伝ポスターを掲示 |
| 7月10日 | 教育学部理科教育科の梶原准教授を通じて講義でポスターを配布、宣伝 |
| 7月12日 | 教育学部芸術文化課程の本村教授を通じてポスターを配布、宣伝 |
| 9月24～27日 | 第1回「死物学への招待」開催 |

10 月	第 2 回「死物学への招待」企画
11 月	学内に宣伝ポスター掲示
11 月 15 日	本村教授、梶原准教授を通じて宣伝
11 月 26 日	第 2 回「死物学への招待」開催



4. 結果報告

①「歯っ！と歯っけん歯の不思議」について

参加者は 11:00 からの回が大人 3 名子ども 7 名、14:00 からの回が大人 10 人、子ども 11 人であった。参加者が少ない回は目の前で説明するなど柔軟な対応ができた。終了後には標本を触りに来る子どもがいて、本物から興味を引き出すという教育・普及の目的は十分に達成できたといえる。子ども科学館では生物分野を扱うことはほとんどなく、新しい試みとして好評であった。

当初の計画より開催が遅れたことが反省点で、科学館側との密な連絡が必要であった。

②「死物学への招待」について

参加者は 1 回目が 1 名、2 回目は 5 名という結果であった。全体的に参加者は少なかったものの、芸術文化課程など新しい分野の学生に参加してもらえたことが大きな成果だった。参加者からは、面白い試みで次回も期待しているという感想をいただいた。動物の死体を扱うという今までには無い試みであったが、好意的な反応を得られた。

死体の解凍に時間を要し、作業開始が遅れるという事があり、今後は進め方に改善が必要である。

全 2 回で標本化したのは、タヌキ、キツネ、ニホンリス、スズメ、カルガモである。作

業中は予算で購入した使い捨て白衣、ゴム手袋を着用し安全に配慮することができた。

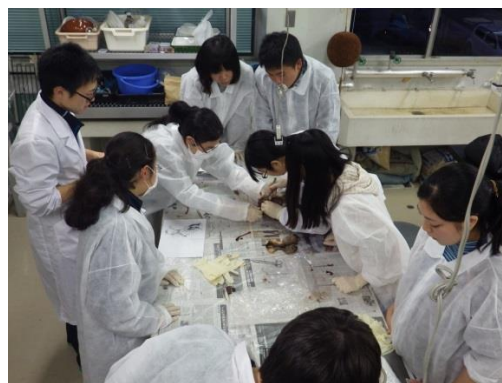
5. 今後の活動予定

子ども科学館での活動は発表の機会を重ね、内容に改良を加えながら継続していく。

「死物学への招待」のような動物の解剖、標本製作を行える機会を今後も企画していく。また、本プロジェクトで得られた骨格標本等は図書館ギャラリーで展示し、一般に見てもらうことで活用する予定である。

鳥獣保護センターから死体を今後も頂き自然史標本や教材として活用していく。この活動について今後は宣伝を活発に行い、理科教育科などの関連分野の学生を巻き込んでさらに発展させていきたい。

<活動の写真>



H 2 5 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：うえだの魅力に伝えよう！！

1. 構成員氏名・学部・学科

鎌田 憲武	人文社会科学部法学経済課程 2 年
鈴木 基広	人文社会科学部法学経済課程 2 年
植木 啓斗	人文社会科学部人間科学課程 2 年
鹿糠 冨俊	人文社会科学部国際文化課程 2 年
福島 佳奈	人文社会科学部国際文化課程 2 年
兵庫 菜花	人文社会科学部国際文化課程 2 年
太刀川晴之	農学部共生環境課程 1 年
阿部 慶太	農学部農学生命課程 1 年

2. 活動目的

① 上田地域の魅力をひろく伝えること

→《上田地域の内の人には》上田の良さに改めて気付いてもらう、出向いてもらう。

→《上田地域の外の人には》上田を知ってもらう、来てもらう。

※ 外の人…まったく上田を知らない人、ほっておいたら上田に来ないような人、上田のことを懐かしめる人などを想定。

⇒岩大生に限らず、上田地域や上田地域以外の盛岡市民、昔上田に住んでいた人、（観光客もある程度視野に入れる）を対象に情報紙を作成。

② 『うえだっしょ！！』の作成を通し上田地域のみなさんと交流すること、また、学生の力で、まちに貢献し、まちを盛り上げること

※平成24年度「上田地域活動推進会と岩大生との交流会」の場で、町内会長さんのみなさんから、「上田」は上田商店街だけでなく、現在の高松や舘向などを含む広い範囲の地域だという話を聞き、今回の「うえだっしょ！！」2号作成に当たっては上田の範囲を拡大し「上田地域」の魅力を発信した。

3. 活動の経過・内容

A 作業内容

平成25年10月 紙面構成を企画、全体計画、取材（12月中旬まで）

11月 取材、

12月 取材、記事推敲、デザイン編集、配布準備

平成26年 1月 記事推敲、デザイン編集、入稿・納品、配布設置

2月 配布設置、訂正作業、反省会

B 紙面構成

① 1面 ラーメン特集

岩手大学や舘坂橋の周辺にある6軒のラーメン店を取材。それら6つのお店をたどっていくと1本の道ができることから「上田ラーメンロード」と名付けた。ラーメンの写真とお店の基本情報、そのお店に対してコメントを掲載。また、写真を大きく配置することにより1号の反省点である1面のインパクトを意識した。

② 2面 「上田人物帖」

上田地域に関わる26人の方に、上田での思い出や好きなのところなどを取材した。最大限その人の口から出た言葉で文章を構成し、その人の言葉を通して上田

の魅力を伝えようと試みた。人選には、前述の上田地域の「内の人」「外の人」を意識し、また特定の業種や所属、年齢や性別に偏りが出ないように工夫した。

③ 3面 カレー特集

ラーメンと同じく、上田にはカレー屋さんが多いことに注目。岩大の「焼きカレー」をはじめ5つのカレーを紹介。レーダーチャートを用いて、5つの視点（辛さ、コク、量、香り、各店舗の特徴）で比較しながら、学生の視点で紹介文を載せた。担当者が時間をかけて文章を推敲し読み応えのある文章になった。

④ 3面 「上田の謎」

高松の池の周辺にある「月の石・火星の石展示館」を取り上げた。看板は見た記憶はあるがそこに展示館があることを知らない人が多く、「上田の謎」として取り上げた。担当者が何度も展示館に通い、文章を作成した。またデザインにも工夫を凝らした。

⑤ 4面 高松周辺の音楽祭特集

近年、盛り上がりを見せている高松（上田茶屋とも呼ばれていた）で開催されている3つの音楽イベントを紹介。またその中心として活動している方のインタビューも行った。写真の一部をたかまつ音楽祭実行委員会から提供を受けた。

⑥ 4面 上田地域のお祭り特集

昨年NPCNが運営に協力した「上田夏祭り」と、岩大の文化祭である「不来方祭」の2つの上田を代表するお祭りを紹介した。特にこの2つのお祭りをよく知らない「外の人」に向けた情報発信を意識した。

⑦ 4面 『うえだっしょ!!』2号について

⑧ 4面 編集後記

C 発行部数

発行部数：3万部（1号は1万部）

D 配布・設置場所と部数 ※概数

①ポスティング（株式会社アドボス盛岡センターに依頼）

盛岡市内39地区の全戸にポスティング 1万8000部

- ・加賀野1～3丁目・上堂1～4丁目・上ノ橋町・北山1丁目・北夕顔瀬町
- ・黒石野1～3丁目・紺屋町・材木町・肴町・清水町・下ノ橋町・神明町
- ・前九年1～3丁目・天神町・長田町・中ノ橋通1～2丁目・梨木町・若園町
- ・箱清水1～2丁目・八幡町・東緑が丘・本町通1～3丁目・緑が丘1～4丁目

②上田地域の17の町内会の全世帯に配布（町内会の配布物と一緒に）5000部

③市内の公民館や観光施設など14の施設に設置 700部

- ・市役所商工課、広聴広報課

- ・市役所市民ホール、西口サービスセンター
- ・中央公民館、上田公民館、西部公民館、渋民公民館、盛岡劇場（河南公民館）
- ・もりおか歴史文化館、おでって、
- ・県庁観光課
- ・市立図書館(高松)、上田児童センター
- ・大通会館「リリオ」

④クロステラス 30部

⑤上田商店街のお店や郵便局 1200部

⑥岩手大学の図書館や事務局、学部の建物 600部

⑦岩大の教職員 600部

⑧4つの学生寮 400部

⑨取材させていただいたお店や人 1000部

⑩その他（先生方の研究会や個別の問い合わせ） 100部

⑪来年度新入生 1000部

※残部は⑪を除いて1000部前後

D 紙面の誤り

1面のラーメン特集の地図上の番号に誤りがあった。すぐに対応を検討し、①当該2店舗への謝罪と対応の説明を行い（顧問も同行）、②未配布分の約1万部に「お詫びと訂正」を印刷したシールを貼った。ネット上でも謝罪と訂正の文書を掲載した。

また、カレー特集の1店で住所の数字が1字抜けていた。同じく謝罪し店長さんに対応を相談した結果、住所は訂正しないことで了承を得た。

4. 結果報告

A 『うえだっしょ！！』2号に対する“声”と“反応”

- ・「カレー・ラーメンを見て行きたくなる」
- ・情報紙を見て『ゴウちゃんのコロッケ屋』に行った人がいた。
- ・「人がたくさん出ていて、いろんな意見があっていい。表情がいい」
- ・留学生が情報紙を見てお昼ごはんを食べる場所を決めた。
- ・ある教授が情報紙を見て『KABAB』に行っていた。
- ・情報紙を持って行った際に『ゴウちゃんのコロッケ屋』の店長さんが「これを機会に岩大生と何かいっしょにやりたいな」
- ・一般の方からメールをいただきました。（原文）「初号がでたとき、うえだっしょを片手に上田商店街を散策して楽しみました。いろんな商店街に行きそのカラ

一や人にふれてあらためて人との繋がりや豊さを教えられました。身近にありすぎて気付かなかった豊さを NPCN のみなさんから教えていただいた感じです」

- ・ 岩大生の友人から「ポストに情報紙が入っていたよ！」
- ・ 「上田人物帖」で取り上げられた方が、知人から「情報紙に載っていたね！」と連絡をもらったとのこと。
- ・ 盛岡タイムスに掲載された （2014年1月31日金曜日）

B NPCNとしての反省

- ・ 1号の反省（文字の量、インパクト）を意識しながら作成できた。それに伴い、大幅に構成を変更したが、1号全体の雰囲気との統一感があり「うえだっしょ！！」としての一貫性を維持できた。
- ・ 「ポスティング」という配布方法を用いることで、広く多くの人に手に取ってもらえた。設置しておくよりも効果があったと考えている。
- ・ 1号では、学内に設置したり中食前で配布しても岩大生に受け取ってもらえなかった。今回ポスティングや上田地域活動推進会の協力によって、岩大周辺に住む岩大生に広く行き渡った。
- ・ 限られた環境のなかでベストを尽くせた。またその結果として形になった。
- ・ 公平さや中立さを意識しつつも「学生らしさ」を出せた。
- ・ 紙面上の誤りが2か所あった。入稿前に入念にチェック作業を行っていたため、文章中の誤字脱字はなかったが、まだまだチェック体制に甘さがあった。
- ・ 今回はネット上での話題性が低かった。ネットを利用している人も巻き込んだ工夫、反響を受け取る工夫が足りなかった。
- ・ ラーメンとカレーはインパクトがあり、多くの人にとって関心が高い分、他にも情報を発信している媒体が多く差別化が難しかった。
- ・ 範囲を「上田地域」に拡大し、商店街の組織に属していないお店を取材対象としたために、地域との一体感や一緒に作っている感じが少なかった。組織に加盟していないお店が増えている中でも、「まちづくり」という視点で考えたときには、作業過程に“入ってもらおう”工夫が必要だと感じた。それぞれの商店街の事情を考慮しつつも、一方通行的な「作ってあげる、作らせてください」ではなく「一緒に作りましょう」という体制が必要。

C 総括

「うえだっしょ！！」の2号目として一貫性を維持しながらも、部数や内容においてよりパワーアップした情報紙が完成した。「ビジュアルはもちろん読み応えのある情報

紙」になったのは、前回の反省やノウハウを生かしながら、「地域」のなかで作成することができた私たちの進歩だと感じる。その一方で、2号目ということで外部の盛り上がりを演出する工夫が足りなかったとの反省もあった。

しかしながら、1号よりも広い範囲に、且つより多くの人に情報紙を届け、上田地域の魅力を伝えることができた。この情報紙によって上田に足を運んでくれた方がたくさんいたことは嬉しい。また作業の過程では岩大生である私たちが上田地域の魅力を感じ、上田地域をより近くに感じることもできたことも大きな成果と考えている。

情報紙の作成に際し、ご協力いただいた上田商店街や高松商店会のみなさん、取材に協力していただいたお店や盛岡市民のみなさん、そしてサポートをしていただいた支援課のみなさんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

5. 今後の活動予定

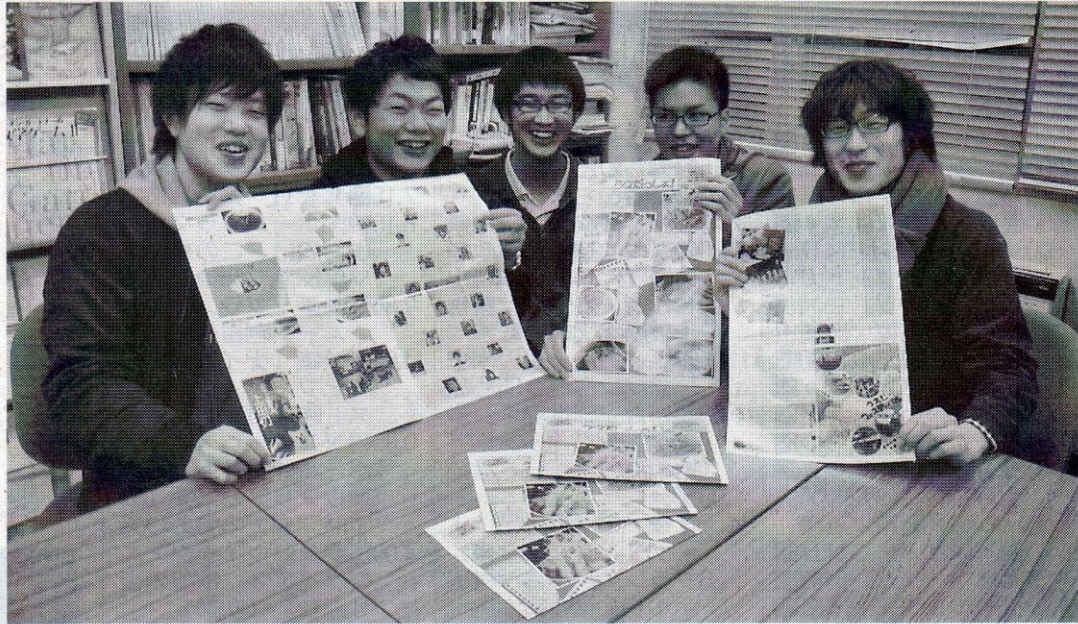
これまで「うえだっしょ!!」の作成だけでなく、「笑顔の街角プロジェクト」や「ゆかたのまち盛岡」、「上田夏祭り」など、まちに出て“まちづくり”に取り組んできた。その中で、たくさんのつながりができ、各方面からさまざまな依頼やお誘いをいただいている。しかし、それらすべてに対応することは不可能で、また、「頼まれたからやる“まちづくり”」は学生らしい自主的な“まちづくり”ではなく、義務になってしまう。

今後は、3月中にサークル内で、次回以降の活動についての話し合いの場を持ち、今後の計画を立てる。今いただいている依頼やお誘い、学内外の制度を鑑みながら、各メンバーが取り組みたい“まちづくり”を提案し合い、コンペティション形式で活動を決め、実施していきます。

<活動の写真>



2014年(平成26年)1月31日 (金曜日) (8)



「上田っいいまちー」。うえだっしょを編集した鹿糠冨俊さん、阿部慶太さん(農1年)、太刀川晴之さん(農1年)、鈴木基広さん(人文2年)、鎌田憲武さん=左から

岩手大学 まちづくりサークルNPCN発行

岩手大学まちづくりサークルNPCN(鎌田憲武代表)は、盛岡市の高松や館岡を含む上田地域の魅力を紹介するタウンペーパー「うえだっしょ!!」2号(オールカラー4ページ、タブロイド判)を発行した。「上田っいいところ。『うえだっしょ』を手に、たくさんの人に来てもらいたい」と呼び掛ける。

歴代の学生の胃袋を満たしてきた6店のラーメンと、学生生協や県立中央病院食堂を含む5店のカレーを大特集。食べ比べのコメントのほか、辛さ、量のグラフも載せた。

かつて上田茶屋と呼ばれた高松での音楽祭や民家に「月の石・火星の石博物館」を開く元南極観測隊員矢内桂三さんを紹介。地域に住む老若男女のインタビューにも挑戦し26人に、まちへ寄せる思いを語ってもらった。

「うえだっしょ」の発行は、まちの魅力を広く伝えることで、活性化につなげたいと企画。昨年続き、学生の取り組みを資金援助する同大の「Let'sびぎんプロジェクト」に採択された。学生8人が約3カ月かけて取材編集した。

「うえだっしょ!!」2号

鹿糠冨俊さん(20) 人文社会科学部2年 〓「上田には人と人が顔を見て話し合える温かさがある。知らないまちの姿に出合い、自分自身が得た感じ」。代表の鎌田さん(20) 〓同2年 〓「上田地域で学生時代を過ごした方も多いはず。また、あそこの店に行ってみたくも思ってもらいたいという意味がある。にぎわいにつながってくれたらうれしい」と期待した。

うえだっしょは3万部発行。1月下旬から上田地域をはじめ、盛岡市内39地区の全戸に配布。市役所や公民館、もりおか歴史文化館、おでつてなどにも置く。

H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：岩手大学 team e-FACT

(Honda エコマイレッジチャレンジ)

1. 構成員氏名・学部・学科

広野 義明	工学部機械システム工学科 2 年（代表）
安達 尚登	工学研究科機械システム工学専攻 M1
北村 直理	農学研究科共生環境専攻 M1
増田 竣亮	工学部マテリアル工学科 4 年
佐々木 朗	工学部マテリアル工学科 4 年
金屋 裕樹	工学部機械システム工学科 2 年
山本 暁雅	工学部機械システム工学科 2 年

2. 活動目的

本田技研株式会社が主催する「Honda エコマイレージチャレンジ」は、アマチュアの人々で争われる燃費を競う大会であり、「1 リッターのガソリンでどれくらい走れるのか?」をテーマに大会を通して環境意識の向上と技術の発展を目的に行われている。

岩手大学 team e-FACT はメンバーの大半が工学部生であり、授業や実習で得た知識を生かす場として参加する。

さらに技量と知識を深め、より省燃費な車両の製作を行い、大会への参戦を目指す。

同時に、大会への継続参加、人材育成を目的とした。

3. 活動の経過・内容

4 月 チーム発足・旧車両の分解

6 月 エンジンや補機類の発注

7 月 新型車両の設計開始

8 月 工作センター様の指導の下、マシン製作開始

9 月 タイヤ・ホイールなどの購入

9 月 30 日 車両完成

10 月 5 日 Honda エコマイレージチャレンジ 全国大会予選

6 日 Honda エコマイレージチャレンジ 全国大会決勝
記録 334km/L

(クラス III 高専・大学・専門学校クラス 完走 48 チーム中 32 位)

10 月 19 日 不来方祭展示

4. 結果報告

メンバーのほとんどが2年目の参加だったため、本年は少し余裕があった。エンジンがなかなか届かないということもあったが、工作センターの方のご指導・ご支援、田中ホンダ様の協力のおかげもあり、無事完走を果たすことができた。この場をお借りして御礼申し上げます。

燃費自体は去年の倍以上になりタイヤ性能の影響や車両剛性の重要性などを発見できたが、大会を通して車両の改善点を多く見つけることが出来た。来年以降の参戦の参考にしていきたいと考えている。

また、反省点として書類管理体制が悪かったこと、スケジュール組立に問題があったこ

とが挙げられる。これについては、来年度以降は書類ファイルの一本化やなどを行うことにより改善していく。今年は大学祭にて展示・広報を実施し、一般の方々や高校生への周知活動もできた。今後は試乗会などもっと大規模な地元企業向けの宣伝活動を取り入れていきたいと考える。

今回のプロジェクトで、環境への取り組みの難しさを感じつつも、メンバーと一緒に物を作る楽しさを知ることが出来た。この経験を将来の技術開発や研究に生かしていきたい。

5. 今後の活動予定

- ・4月サークルオリエンテーションにて、車両展示・プロジェクト概要の説明
- ・新体制発足
- ・新ルール適合次期参戦車両の設計・開発
- ・エンジンの改良
- ・自動車関連のセミナー参加
- ・他団体との情報共有とともに、知識及び技術の向上
- ・スポンサー探し





H25 年度 Let's びぎんプロジェクト

実施結果報告書

プロジェクト名：岩大モザイクアートプロジェクト

1. 構成員氏名・学部・学科

福岡 千春	工学部応用化学・生命工学科 4 年
河野 真由	工学部応用化学・生命工学科 4 年
中山 環	工学部応用化学・生命工学科 4 年
渡辺 杏	工学部応用化学・生命工学科 4 年
高貝 賢	工学部応用化学・生命工学科 4 年
塚澤 尚悟	工学部応用化学・生命工学科 4 年
仁多見 りょう	岩手県立大学 ソフトウェア情報学科 4 年

2. 活動目的

4年間岩手大学で過ごし、地域の人、建物、行事、サークルなどたくさんの思い出ができ、岩大周辺地域や岩大の双方にとっても魅力的な環境であると感じた。その魅力は自分で発見したもの、先輩から教えてもらったものなど様々な形で知ることができたが、まだまだ知らない魅力がたくさんあると思った。

そこでこのプロジェクトでは周辺地域、岩手大学の双方の関係について改めて見つめることで新たな発見をし、写真モザイクアートを通して高校生や後輩に伝えたいと思った。

テーマ決めの背景は、H22年度のLet's びぎんプロジェクトである、「岩大を飾る絵画あるプロジェクト」がある。こちらのプロジェクトでは花壇を綺麗に整備し環境を整えることを通して地域住民との交流を持てたということが報告されており、モノづくりが地域との交流を作ったり深めたりするきっかけになったことに魅力を感じた。そこで、私たちは形に残るものづくりを通して地域の方々と交流したいと考え、写真モザイクアートの製作に挑戦することに行きついた。

岩手大学周辺地域と岩大生の双方の良さを伝えられる写真を用いてのモザイクアートの制作を通して、地域の方々には岩大生の活動の様子を、岩大生には周辺のお店などを知ってもらいたいと考えた。そして、このモザイクアートがきっかけで地域と岩大生、互いの相互関係をより深めることを目的とした。

3. 活動の経過・内容

まず初めに“実際に岩大生が良く行くお店”や“穴場のお店”などを調査するために岩大生向けにアンケートを実施すると同時にモザイクアートで表したいメッセージの募集や、写真提供の呼び掛けをした。6月下旬にアンケート用紙を作成し、7月上旬から中旬まで各食堂を回ってアンケート用紙の配布、回収をした。平行してWEB上でもアンケートに回答できるように工夫し、回収率アップを目指した。またfacebookとTwitterを開設し活動状況の記録と協力の呼びかけをした。さらに、地域活性をテーマに活動しておられる、NPCNさんとも対談させていただいた。

8月にはアンケートの結果と自分たちでピックアップした岩大生なじみの店にアポイントをとり訪問させていただいた。その際、お店の人に岩大生に対する想いをメッセージカードに記入していただき、お店の雰囲気が分かる写真を撮影させていただいた。

より幅広い多くの学生から写真を提供してもらうために、学友会の方の協力のもとサークルキャブテン会議に参加し告知させていただき、また、直接団体に交渉し活動風景を撮影させていただいた。

9・10月は集まった写真の加工、現像に取り組んだ。得られた写真のデータは、モザ

イクアート加工ソフトを用いて加工し、写真店で現像した。大学祭当日用に掲示板に飾り付けをし、ガンダイニングに取材をしていただいた。

4. 結果報告

アンケート用紙を、中央食堂、工学部食堂、農学部食堂前で計 500 枚配布した。アンケートの回収枚数は 30 枚であった。また WEB 上のアンケートの回答数も伸びず、関係ない内容の回答があったことで、回答してもらうことは難しいことだと感じた。もっと回答したくなるような、奇抜な工夫（色・デザイン・内容）が必要であったのではないかと思った。Facebook、Twitter では活動ごとに更新し、多い時では 200 件近い閲覧があったので、活動を広めるには効果的な方法であったと考えた。また NPCN さんとの対談では、活動の軸を再認識させられ、プロジェクトの価値や協力してくれる方々のメリットを考えることでの協力率アップを狙うことなど、もっと深く考えなければいけないと思い、NPCN さんとの対談はプロジェクトを見つめ直す、よいきっかけになった。

店への訪問では約 50 店舗ピックアップし、32 店舗に訪問した。訪問先の店長さんや店員さんは懇切丁寧に対応してくださり、地域の温かさや地域の知らない魅力を感じた。また、岩大周辺地域が昔より活気がなくなっているという声を聞いたので、魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。そこでさまざまな団体に協力してもらい、この活動の知名度が高まり、多くの岩大生に協力してもらうことで、作品に対する愛着が強くなると思った。そしてこのプロジェクトに参加したことをきっかけに、周辺地域のために何か活動を起こしていくことや、来年度の Let's びぎんプロジェクトに参加するなど、新たな行動に移してもらいたいと考えた。

そのために、多くの学生にこのプロジェクトに写真提供という点で協力してもらいたいと思った。当初は岩大生に対する呼びかけは、アンケート、サークルキャプテン会議、アイアシスタント、SNS 等で行ったが、アンケート回収率や、写真を提供して下さった団体数が少ないことから、学生からの反響があまり得られなかった。その原因としては、一つ目、プロジェクトの知名度が低いことが考えられた。プロジェクトが始まって日が浅いということや、呼びかけた時期が学期末だったこともあり、そもそもモザイクアートプロジェクトを行っていること自体が知られてないのではないかと思います、あらたにポスターを作成することや、アイアシスタントで再度呼びかけた。二つ目は、現在、写真提供の手段として用いている、Facebook への投稿や Dropbox が、良く分からないということです。対策として、データを直接受け取りに行くことや、練習風景を撮影しに行くこと、サークルキャプテン会議に再度参加させてもらった。その結果多くの学生に協力していただくことができ、目標の写真枚数を大幅に超える提供を得られ、大学祭当日はたくさんの人に見に来てもらい、岩ダイニングさんにも取材して頂いた。

このプロジェクトが、岩大と周辺地域の双方の魅力を多くの人に伝え、多くの学生が行

動を起こすきっかけになってほしいと思った。今後岩大とその周辺地域がもっと盛り上がってほしい。

<活動の写真>

